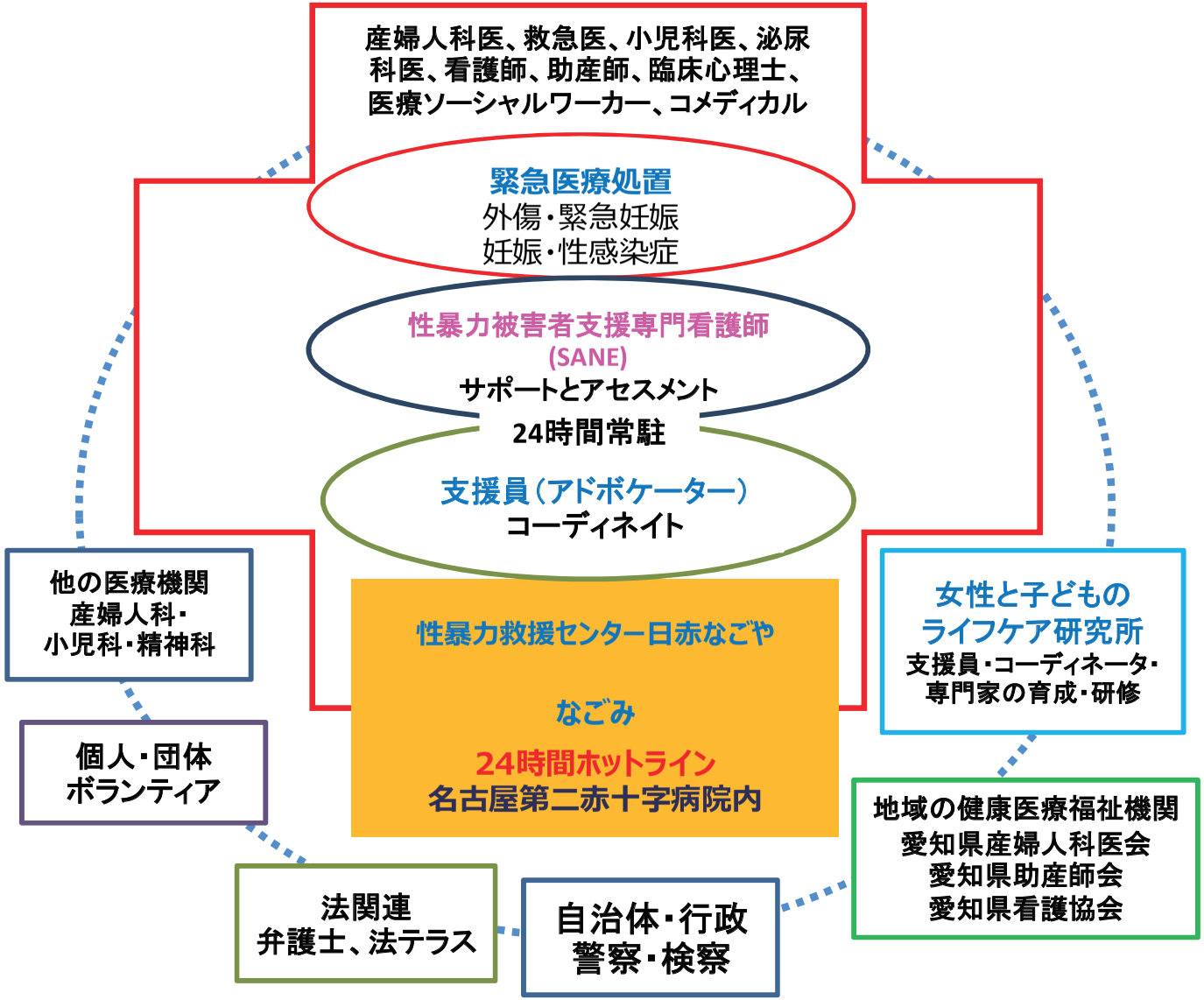
名古屋市

地域との連携による病院拠点の支援モデル



名古屋市：ファシリテーター養成研修修了者のためのフォローアップ研修

（被害者支援体制の構築・強化）

１．実施前の課題

・ワンストップセンターとしての重要な機能となる、支援コーディネイト機能力を向上させる必要がある。

・実践的に必要な被害者支援に対応できるスキルを向上させるためにフォローが必要である。

２．実施による成果目標

・活動中に生じた不安や被害者への対応について、事例検討会を開催し、支援者全員で話し合い、情報共有を図る。

・ファシリテーターとしての、資質向上を図る。

３．実施結果

（１）　日時：平成 28 年 7 月 24 日（日）10:00～15:30

（２）　場所：名古屋第二赤十字病院　研修室

（３）　講師：中島幸子、西山さつき

（４）　主宰：ＮＰＯ法人レジリエンス

（５）　研修受講者：性暴力被害者救援センター日赤なごや、なごみで活動中のＳＡＮＥ2 名

（６）　感想

・研修を受けて、被害者支援について学びを復習する機会になった。

・研修生間で、職種を越えて支援活動に対しての意見交換ができた。

・他機関の被害者支援の実際等を説明してもらい、支援活動の参考にできた。

・情報共有、意見交換が被害者支援活動においては、有用であることを再確認できた。

４．実施の成果

〈事例検討会〉

平成 28 年 7 月 6 日（水）　17 時～18 時 40 分　参加者 28 名

平成 28 年 10 月 5 日（水）　17 時～18 時 55 分　参加者 30 名

平成 28 年 11 月 8 日(火)　17 時～18 時 40 分　参加者 27 名

平成 28 年 12 月 7 日(水)　17 時～19 時 00 分　参加者 29 名

上記の参加人数で、事例検討会を開催した。

〈参加者の感想〉

【7 月】

・他機関のことを知ることができて、勉強になった。

・実際に女性サポートをされている方の専門的な言葉や情報が飛び交うと、なごみで適切な対応ができるのかと不安になった。整えること、支援員が知らなければならない制度などまだ沢山

ある。

・事例で性暴力被害でここにたどりついたわけではないという内容があった。電話相談が性暴力被害なのか、ここで受けるべきものなのかを見極められるようにしていきたい。まだ、理解できていないことに気がついた。

・行政との連絡を取ることに対する重要性と難しさを感じた。

・6ヶ月が経過して、なごみのスピードと対応の早さに気づいた。

・難しいケースが増えてきた。事例検討会で、自身をバージョンアアップしていきたい。

【10月】

・支援員（アドボケーター）電話相談の対応についての検討を、共通理解を深めるために、別の事例でもとりあげてもらいたい。

・相談のニーズを知るために最低限の聴き取りが必要である。面談をすすめる基本だけでなく、相談時点で緊急性のあるケースではリスクアセスメントを社会資源の知識をもって対応すべきである。具体的に対応を深めたい。

・15分で電話を終える事の意味が再確認できた。

・具体的な電話対応の進め方がわかった。

・共通認識として「なごみ」は電話相談ではなく「来所をうながす」ように電話対応をすることが大切と学んだ。

・少しずつパワーアップしている。経験を積み重ねて、人として関わっていきたい。

【11月】

・だんだん対応が複雑で難しくなっていくように感じている。

・事例について、共通理解ができてよかった。

・スーパーバイザーより具体的なアドバイスを聞くことができてよかった。

・虐待事案についての現状（3機関連携）を正しく理解することが必要。

・連携・関係機関の方の参加は学びがある。

【12月】

・事例検討会は、必要な支援を届けるために、どんな関わりが必要なのか検討できてよかった。理解が難しい点もあるが今後も検討を継続し共通認識ができるとよい。

・専門の方の意見やアドバイスが聞けて良い。

・各連携の難しさやしくみが理解できた。

・毎回有意義な時間が持てている。

５．実施後の課題（現状）

・事例検討の参加者が毎回固定しないためには開催日時の検討が必要である。

・連携関係機関の方の参加を確保していく体制構築が必要である。

・事例検討会の開催を今後も継続していく必要がある。

名古屋市：先進地視察（被害者支援体制の構築・強化）

１． 実施前の課題

先進地における次の取組を理解し、今後の運営の改善につなげる必要がある。

（１）警察・病院・民間と相談センターによる被害者支援体制。

（２）被害者支援における役割や備えるべき資質・要件など。

（３）社会が求める被害者のニーズに適合した支援システムの構築。

２．実施による成果目標

（１）性暴力救援センター日赤なごやなごみが、開設後約１年を経過する中で、今一度、先駆的に実施されている性暴力救援センターより、学びや気づきを得る。

（２）学びや気づきについては、スタッフ間で共有し、なごみとしての対応力の向上を図る。

３．実施結果

① 見 学 日：平成 28 年 12 月 6 日（火）
見学時間：13 時 30 分～15 時 00 分
見 学 先：社会法人大雄会　大雄会第一病院　ハートフルステーション・あいち

② 見 学 日：平成 28 年 12 月 15 日（水）
見学時間：10 時 30 分～12 時 00 分
見 学 先：特別非営利活動法人性暴力救援センター・東京（SARC 東京）

４．実施の成果

［ハートフルステーション・あいち］

１．運営概要

（１）設置の経緯

平成 22 年度の国のモデル事業として大雄会第一病院内に設置し、運営を開始した（ただし、モデル事業は当該年度末で終了し、以降は愛知県の予算により愛知県警が主体となって運営）。

設置の目的は、性犯罪被害者に必要である初期的な被害相談、医療、各種支援を１か所で受けられるようにすることにより、被害者の心身の負担をできるだけ軽減し、及び警察への被害申告を促進して、性犯罪の潜在化を防止することを目的としたもの

（２）医師、看護師等の被害者支援の状況

被害者等からの電話相談や面接相談の形態をとっているが、面接した被害者について、医師による診察が必要な場合に、ハートフルに勤務する民間支援員、警察官、医師、看護師等が連携し、必要な支援を行っている。

２．施設見学と取組についての説明

（１）支援体制、相談体制の状況

開設時間は、月曜日から土曜日の9時から20時までであり、この間、女性警察官1名とサポートセンターあいちからの派遣支援員1名が相談等への対応をしている（ただし、17時以降は警察官のみ)。開設時間帯以外の対応は、緊急性のあるものは、110番通報を促すなどのガイダンスにより案内している。

（2）対応する職員の意見

警察官が常駐することにより、被害者が事件化を望む場合の適切かつ早期の対応が可能になる。性犯罪の潜在化予防という設置目的に鑑み､性犯罪被害者への対応が主であるものの､現実には、性暴力被害者から相談も少なくなく､こうした被害者への対応も適切に行う必要性を感じている。

相談内容によっては、ハートフルのみでの対応は困難であり、法テラス等の法律相談窓口の紹介など、関係機関や団体との連携が必要である。また、被害者の居住地によっては、なごみを紹介することもある。

（3）支援者の心のケア等

相談体制は、警察官と支援員の計2名であるものの、開設時間における体制を維持するため、スタッフは、警察官2名と支援員4名の計6名が配置（確保）されている。支援員については、年1回の研修のほか、毎月1回、警察本部の臨床心理士とともに事例検討会を開催し、被害者支援業務のスキルアップと心のケアを図っている。

[性暴力救援センター・東京（SARC東京)]

1．組織の概要

平成23年に開設準備委員会が設置され、1年の経過を経て平成24年6月に性暴力救援センター・東京（SARC東京）が開設された。

（1）病院概要

産科婦人科小児科精神科心療内科を持つまつしま病院は、女性と子どもの「安全・健康」を総合的に考える医療を提供するべく、診察だけでなく、いろいろなお話を通して「本当の健康」「本当の元気」をお手伝いすることを目的に開院されており、DVはじめ、性暴力被害への対応にも取り組まれている。

（2）性暴力救援センター・東京（SARC東京）の位置づけ、及び組織について

平成26年3月にNPO法人の認証を得て、現在は49名のスタッフで、病院とは別の組織として運営されている。

（3）医師・看護師の被害者支援の実際について

まつしま病院との連携にて、必要に応じて24時間365日の対応をされている。

2．施設見学と取組みについての説明

（1）支援体制、相談体制の状況

49名のスタッフのうち、3分の1がSANEの研修を受けた看護師である。センターには常に2名体制で、スタッフが24時間ローテーションを組んで対応をされている。東京都犯罪者等支援計画事業に参画する各機関が一堂会する「調整会議」は年3～4回開催されている。

（２）対応する職員の意見

『性暴力のない社会を実現する支援員』として、強い決意をもって本事業に関わっていることがわかった。そのためにも、知識をしっかり持って対応する必要性があり、無知は無力感につながる。研修は大事である。

（３）支援者のこころのケア等

月に１回は事例検討会を開催し、ほぼ全員のスタッフが集まり、情報共有されている。内容的にも、初期対応から、その後の判決に至るまでの経過の共有から、今後の対応への学びに変える等もあり、５年間の実績の重さを感じた。

５．実施後の課題（現状）

①　ハートフルステーション・あいち

同一県内にワンストップ支援センターの機能を有する施設が２か所ある都道府県はなく、性暴力被害者の救援を求める声を広く吸い上げるという上においては、今後更なる効果が期待される。また、ハートフルとなごみの所在地が異なることは、被害者が相談に訪れる際の選択の幅を広げることにもつながることから、引き続き連携を図り、性暴力に苦しむ被害者の拠り所となり、住みやすい街になるようにしていく。

連携を図るためにも、お互いがお互いの活動の周知を図るための取組を行うほか、定期的に連絡会議を開催するなどして、情報共有と協働に向けた取組に努める。

②　性暴力救援センター・東京（SARC 東京）

事例検討会のやり方の参考を得たので、今後のなごみで検討会に活かしていく。長期に継続した活動になるためにも資金面での安定運営を考える必要がある。今後の安定した運営を考え、スタッフがやりがいをもって、支援事業に関わり続けるための心のケアや研修のあり方などを考える。また、先駆的に行われている機関へ積極的に出向き、学びを得ることが大事である。

名古屋市：活動・体制の検討調整連絡会議（被害者支援体制の構築・強化）

１．実施前の課題

支援活動の基本は、被害にあった人に寄り添い、本人のペースを尊重しながら心理的支援・医療支援・法的支援・生活支援を行う。そのためには、行政や警察・検察、弁護士や民間の支援団体と更なる連携強化を図る必要がある。

２．実施による成果目標

２ヶ月に１度の開催で、様々な問題を共有する。

３．実施結果

第１回　平成 28 年 4 月 26 日(火)　17 時～　　名古屋第二赤十字病院

第 2 回　平成 28 年 7 月 19 日(火)　17 時～　　名古屋第二赤十字病院
第 3 回　平成 28 年 9 月 20 日(火)　17 時～　　台風にて中止
第 4 回　平成 28 年 11 月 15 日(火)　17 時～　名古屋第二赤十字病院
第 5 回　平成 28 年 12 月 27 日(火)　17 時～　名古屋第二赤十字病院

４．実施の成果

連携推進会議では、それぞれの機関の状況報告や忌憚のない意見を相互にできる場となった。

会議には、オブザーバーとして大阪 SACHICO や警察・検察の方も参加頂き、大変有意義であった。多機関多職種の専門性を活かし合える連携に繋がった。

５．実施後の課題（現状）

今後もこの連携推進会議を大事にして、児童相談所や精神科の医療機関等にも加わって頂き、支援の輪を拡大していく。

名古屋市：トラウマを抱えた子ども・思春期の青少年へのアプローチ研修（相談支援機能の拡充・強化）

１．実施前の課題

・性暴力救援センター日赤なごやなごみでは、電話相談してくる被害者の多くがトラウマを持ち、過去の時間と戦っている。
・思春期は、被害者にも加害者にもなりうる可能性がある時期であり、家族背景や生育歴も含めた、アセスメントが必要である。
・被害者が早い段階から、司法・行政に繋がり、より良く生きていく一助となるような支援方法など、思春期の青少年へのアプローチの仕方を学ぶ必要がある。

２．実施による成果目標

・性暴力救援センター日赤なごやなごみの相談対象となる子供・思春期の青少年に寄り添い、事象を聞き取る方法を学ぶ。
・トラウマを抱えた思春期の青少年へのアプローチの仕方を学び活用する。

３．実施結果

（１）日時：平成 28 年 7 月 23 日（日）9:30～16:30
（２）場所：名古屋第二赤十字病院　研修室
（３）講師：中島幸子、西山さつき、辻ロビン
（４）主宰：ＮＰＯ法人レジリエンス

（５）研修受講者：性暴力救援センター日赤なごやなごみで活動するＳＡＮＥ ２名
（６）感想
　性暴力とは、加害者の特性、誰にも言えない訳などを理解し、その寄り添い方法を学んだ。被害者に、自身は決して悪くないことを伝える必要性と、思春期の加害者の苦しみにも耳を傾ける必要性を学んだ。

４．実施の成果

・思春期の少女で、中期中絶のケース、出産に至るケースが実在する。そのケースに対して、思春期の揺れ動く心を理解しようとする姿勢に変わることができた。
・性暴力救援センター日赤なごやなごみの支援員とＳＡＮＥに対して、12 月 7 日に研修伝達と事例検討会を実施し、参加者全員で学びを共有できた。

５．実施後の課題（現状）

・思春期でも 13 歳以下のアプローチは、大変難しく、聞きすぎると作話も入るため、司法面接士など の協力が必要である。情報共有しながら子供に接していく必要がある。
・犯罪捜査や児童保護についての問題がつきまとうため、学校、地域、病院など多くの連携が必要で、いつでも相談し合える環境作りが必要である。

名古屋市：子どもである被害者への相談対応力向上のための研修（RIFCR 研修）（相談支援機能の拡充・強化）

１．実施前の課題

・子どもである性暴力被害者の実態と影響について理解する必要がある。
・子どもである性暴力被害者がセンター来所（初期対応）時の支援方法を知る必要がある。

２．実施による成果目標

・子どもが虐待を打ち明けるプロセスを学ぶ。
・子どもからの聞き取り方の実際を学ぶ。

３．実施結果

（１）日時：平成 28 年 11 月 5 日（日）9:00～18:20
（２）場所：名古屋第二赤十字病院　研修室
（３）講師：山田　不二子　他 4 名
（４）主宰：認定ＮＰＯ法人チャイルドファーストジャパン
（５）研修受講者：性暴力被害者救援センター日赤なごやなごみで活動中のＳＡＮＥ1 名、医療ソーシャルワーカー1 名

４．実施の成果

【感想】

・子どもの性虐待は表面化しにくいことを理解できた。

・子どもの性虐待を早期に発見するには、支援者の何か変だと気づける目を養うことが必要であり、ＲＩＦＣＲ研修はスキルを高めるためには必要な研修である。

・定期的に研修会に参加して学ぶ必要がある。

・被害を認知したら、適切な機関と早期に連携し、協働面接（司法面接）に繋ぐ必要性を認識できた。

５．実施後の課題（現状）

・子どもに性被害が与える影響は大きい。被害を受けた子どもの家族の苦痛もはかり知れないものである。子どもの支援には、専門的な知識が必要となるため、専門講座を受講して、支援スキルを向上する必要がある。

・子どもの負担軽減のためにも、多職種多機関チームでの対応を充実させる.

名古屋市：なごみハンドブック（被害者対応マニュアル）作成（相談支援機能の拡充・強化）

１．実施前の課題

・現行の性暴力被害者支援の活動マニュアル見直しと整備が必要。

・支援の実際等が具体的に言語化されていない。

２．実施による成果目標

・支援者は、マニュアルを常に携帯し活動できる。

・支援者が困った時や疑問に思った時に、マニュアルを活用して対応する事が出来る。

３．実施結果

活動マニュアルの印刷・製本　150 部

＜主な内容＞

１．性犯罪・性暴力被害者のための支援センターの目的

２．対象となる事象の定義

３．性暴力救援センター日赤なごやなごみにおける支援内容

４．性暴力被害者支援の流れ

５．支援員の役割

６．SANE の役割

７．子どもの対応

８．記録管理と記載

９．医師の役割
１０．コメディカルの役割
１１．各種記入シート
１２．性暴力被害を受けた方への説明・同意書
１３．連絡先

４．実施の成果

性暴力被害者支援は、支援者・協力機関が、存在意義を共通認識して、一貫性のある連携をとる必要がある。マニュアルに示した、組織を目指す願望を表すミッション・ビジョンの明文化は、支援者が活動目的を共通認識するために有効であった。

性暴力は、被害者の人生や生活に甚大な影響を残すため、被害者がそこに行けば必要な支援が得られるワンストップセンターの意義は大きい。支援活動の基本を、性暴力被害にあった人たちに寄り添い、本人の意思とペースを尊重する。心理的支援、医療支援、法的支援など必要な支援につなぐ。性暴力被害者への行政・民間の支援を有機的に結びつける役割を担うとした。また、ビジョンは、「人道・信頼・情熱」とした。今後の具体的な活動のなかで、「人道・信頼・情熱」を実践することはどういうことなのかを、支援者個々が幅広い視点で考えていけるようにしていく。

マニュアルは、性暴力救援センター日赤なごやなごみで活動する支援者、連携機関の担当者に配布した。ポケットサイズである為、常に携帯して活用していく。

【配布先】
・性暴力救援センター日赤なごやなごみで活動する支援者に配布
・相談員、SANE、医療ソーシャルワーカー、コメディカルスタッフ
・産婦人科医師、小児科医師、救急医師、泌尿器科医師、看護師
・連携機関

５．実施後の課題（現状）

定期的な活動マニュアルの見直しと修正が必要である。その為に必要な、整備製作費用の確保。

名古屋市：望まない妊娠をした被害者支援の支援者育成研修（相談支援機能の拡充・強化）

１．実施前の課題

・性被害を受けた後、望まない妊娠として、やむを得ず出産に至る場合、トラウマを抱えながら、出産も育児も未来も描くことが出来ずにいる。
・出産が終われば、今度は自分が子供の虐待、虐待を受けた子から誰かへの虐待という連鎖ができあがってしまう。その苦しみをどこかで断ち切ることが出来るとしたら、出産の時ではないかと言われている。出産という本当は幸せであるべき大イベントに寄り添う人があったなら、被害者を肯定

してくれる人があったなら、その人の人生は変わるというエビデンスに基づいたデータの元に、その寄り添い方を学ぶ。

２．実施による成果目標

・望まない妊娠をした被害者に寄り添い、出産が幸せな経験として受け止めてもらうことで、虐待連鎖を断ち切る一助とできる。
・性暴力救援センター日赤なごやなごみで活動する支援員と SANE は、研修受講者より、ドゥーラワークショップ研修会の報告を受ける。
・周産期の女性と家族に寄り添った、心理的支援の提供方法について学ぶ。

３．実施結果

（１）日時：平成 28 年 9 月 6 日（火）～8 日（木）
（２）場所：東京都中野区若宮 3-52-5　古民家 Asagoro
（３）講師：デボラ・パスカリ・ボナロ
（４）研修受講者：性暴力救援センター日赤なごやなごみの SANE1 名
（５）感想

家庭分娩の中で昔から行われていたドゥーラケアが、病院出産に移った事で、家庭的な継続したケアと離れ、満足行く幸せな出産とは言い難い環境になっていると言われている。周産期の女性と家族に継続して寄り添うこと、そのケアに医学的根拠を理解して望む事、特に気持ちに寄り添うことは、その人の一生に影響する。それは医療者でなくても、妊婦を受け止める思いがあれば誰でもが支援者になれる。海外では当たり前に行われ、保険適応内で、このケアが提供されている。

４．実施の成果

（１）10 月 5 日（水）出産ドゥーラワークショップ研修会参加報告

＜参加者＞

性暴力被害者救援センター日赤なごやなごみの、支援員 9 名、SANE15 名、警察・その他関係者 6 名に研修報告を実施。

＜感想＞

・濃密な内容であり「ドゥーラ」報告に感動しました。
・幸せなお産を支える一つの場としての、被害者支援のホットラインでもあると認識できました。
・今できる事を、思いっきり明るくやっていきたいと、支援活動について意欲がわきました。

（２）10 月 31 日（月）

助産師教育として､名古屋第二赤十字病院の産科病棟で勤務する助産師 10 名に研修報告を実施。出産時、一番関わる助産師教育として、ドゥーラの意味、関わり方を伝授した。

＜感想＞

・性暴力被害者の出産には、まだ出会っていないが、ハイリスク分娩の方に可能な限り寄り添い、

学んだ技術を提供していきたい。

・日々のケアがどんな人にでも大切なケアになる様に、意識して対応していきたい。そして、被害者の出産時には経験を生かして対応していきたい。

５．実施後の課題（現状）

・被害者の中で出産に至ったケースでは、産前から、出産時、産後、現在と、寄り添いを行い、母子支援を継続している。

・ドゥーラの利点は、被害者に寄り添う事で、性暴力被害者の産後うつの軽減、被害者の中の若年妊娠時には、「母の母」として、健全な母親のロールモデルとして支援に繋げること等がある。今後、性暴力救援センター日赤なごやなごみにおいて、ドゥーラの役割を担う支援者の育成が課題である。

名古屋市：専門人材による相談対応（相談支援機能の拡充・強化）

１．実施前の課題

よりよい被害者支援のために、関係機関との協働支援体制の構築を図ることが必要。

２．実施による成果目標

フォーマルインフォーマル共に社会資源は存在するも、まずは、公的機関から、地域の連携先について連携先を開拓して、強化を図る。

３．実施結果

平成 28 年	7 月	1 件	区の女性相談員
	8 月	1 件	市の女性相談員
	10 月	1 件	市の男性相談
	11 月	2 件	市の障害者相談支援員と県の児童相談所
	12 月	2 件	県の児童相談所と市の女性相談員

４．実施の成果

・各連携機関の機能を活かし合う連携につながった。

５．実施後の課題（現状）

・公的機関だけでなく、地域のおける民間含めた社会資源の開発と連携を図る。

名古屋市：相談員の心のケア（相談支援機能の拡充・強化）

１．実施前の課題

・相談員が相談業務を行う中で被る可能性のある二次的トラウマの防止を図る必要がある。

・まだまだ充分とはいえないので、更なる連携を構築する。
・今後も継続して、公的機関だけでなく、協働支援できる連携先を増やす。
・多職種多機関による事例検討会の開催で、連携強化を図る。
・被害者に対する支援体制の強化を図る。
・開設１年で、相談件数が増え支援者がどう関わっていくのかの判断が難しいケースがある。一人の相談者から何度も繰り返される電話相談があり、その回数は２カ月でおよそ 70 件以上の電話となっている。相談員は、電話対応に戸惑う時もあり、被害者支援を通じて、共感疲労、代理受傷に陥る危険が出ている。
・少人数であるがストレスを抱えて活動していた相談員、SANE が存在していた。

２．実施による成果目標

・相談員に対する心理的支援を通して、相談員の精神・心理面のストレスを明確化し、軽減を図り、相談業務の質の恒常性に貢献すること。

３．実施結果

・相談員 22 名に対して、１人 60 分の臨床心理士による個別面談を実施。
・日頃の疑問・不安等を率直に表出することで、ストレスの軽減が図れた。
・相談業務に対する動機づけを再確認する機会となった。

４．実施の成果

・開設後から、ひとりも相談員は離脱なく、支援活動を実践できた。
・相談員のセルフ体制の仕組みを検討することができた。
・事例検討会や日々の相談員同士の語らいが、ストレス軽減には有効である。

５．実施後の課題（現状）

・相談員が、二次被害を起さず活動を継続するためには、相談員のこころのケアに取り組む必要がある。定期的なカウセリングの実施体制の整備が必要である。
・年に１回以上の定期的な個人カウセリングの実施。
・支援者自身のセルフケア等習得のための研修会開催。
・事例検討会の継続開催。

名古屋市：夜間相談窓口対応（相談支援機能の拡充・強化）

１．実施前の課題

・夜間帯(17 時以降、翌 9 時)においても支援の相談がある。
・性暴力の発生は 24 時間 365 日である。
・被害状況からもすべての時間帯で相談対応できることは重要である。
・しっかりと対応することで、自己肯定感を落とすことなく、状況に立ち向かっていけるように、寄り添い支援は重要である。

２．実施による成果目標

・24 時間 365 日のスタッフを配置し、常時質の高い被害者支援体制を確立する。
・夜間帯（17 時から翌 9 時）の時間帯の相談員を確実に確保する。

３．実施結果

＜期間＞

平成 28 年 10 月 1 日から 12 月 31 日（92 日間）

17 時～21 時は支援員 1 名、SANE1 名の 2 人体制が実施できた。

2 人体制は、来所している被害者に緊急医療処置などを実施する時も、別の電話を受けるなどが可能であった。

４．実施の成果

夜間の相談件数の増加につながった。統計は、別紙参照とする。

被害者への相談対応時に、2 人体制を取れていることは、相談員同士が相談し合えることで、支援する者の負担の軽減や心の安定につながる。

５．実施後の課題（現状）

今まで声を出せなかった被害者に相談の場を提供することができた。

いろんな被害者があるも、周りの人に理解や支援してもらえなかったり、何度も被害に遭っていたり、引きこもってしまったり、被害者の自己肯定感が低下している実際の状況から、更なる被害を生まないように、世代間の暴力の連鎖を含め、しっかりと断ち切ることは重要である。

２人体制は有効であり、その為の被害者支援のマンパワーの確保と充実は急務である。その点で費用面での裏付けは必須である。

被害を予防するための教育啓蒙活動、支援者の対応力の向上、またそのための多機関多職種連携のシステム作りと充実は重要である。

社会全体の風土の変革に向けては、事業の継続は重要な活動であり、今後も確実に実践していく。

名古屋市：性犯罪・性暴力被害者支援窓口の広報と周知（広報啓発の推進・強化）

１．実施前の課題

性暴力救援センター日赤なごやなごみについてのホームページを作成する。性暴力救援センター日赤なごやなごみについて、一般市民に周知してもらう必要がある。性犯罪・性暴力被害者支援についての情報発信が、被害後の早期対応に繋がり、被害者の身体とこころの回復に繋げていく必要がある。

① ホームページ作成

② ポスター作製　Ａ２サイズ　100 枚

③ カード作成　名刺サイズ　2,000 枚

④ 性暴力の被害者は、若年層が多い。巻き込まれないようにするためにも、教育機関の教職員に向けて研修を行う。

２．実施による成果目標

・性暴力救援センター日赤なごやなごみについての情報を明確にできる。

・性犯罪・性暴力被害者支援の情報がスムーズに検索できる。

・ポスター・カード配布による周知

・性暴力や性犯罪被害の実情を伝え、予防活動に向けての啓発ができる。

３．実施結果

＜ホームページ＞

① 作成業者の決定

② デザインの方向性の相談

③ ホームページの制作

性暴力救援センター日赤なごやなごみ Web サイト

・サイトプランニング　・コーディング　・ＣＭＳ導入（更新機能）　・スマホサイト

・ドメイン・サーバー取得

掲載内容（トップページを含め、6 ページ構成）

① 性暴力とは　② なごみについて　③ 被害にあったら　④ 家族や友人が被害にあわれた方

⑤ 性暴力と向き合う　⑥ 性犯罪に巻き込まれないために

ＵＲＬ：　http://nagomi.nissekinagoya.jp/

＜ポスター・カード＞

・作成枚数：ポスター100 枚　カード 2000 枚

・配布先：教育機関、医療機関、県警察、児童相談所、保健所、市町村、女性と子どものライフケア　等

＊平成 28 年 11 月 15 日　愛知県私学教育研修会

テーマ「性暴力救援センター日赤なごやなごみのめざすものー開設後の現状と課題ー」

研修内容

１．なごみ概要	45 分	
２．なごみの統計	15 分	
３．事例を通じたワークショップ	70 分	代表事例 5 つ
４．意見交換	10 分	教育機関の養護教諭 11 名の参加

４．実施の成果

性暴力救援センター日赤なごやなごみは開設後 1 年を経過した。期間の中で、被害経験を持つ沢山の方々の声を聞かせて頂いた。被害者の方は、被害にあった自分を責め、社会からの偏見と闘い、精神的、肉体的な苦しみを背負う日々が続いている。相談者から、やっと理解してもらえる場所を見つけた、信じてもらうことができた等の声を聞く事があるが、ワンストップセンターの認知度はまだ低い。

ホームページの制作は業者に依頼。内容は他の支援センター等のホームページを参考にさせて頂き、性犯罪・性暴力被害にあわれた方が情報として活用できる内容が掲載できるように検討して制作した。

カードは、若年層が手に取った時に、持っていてもいいかなと感じてもらえるように、優しい印象をうけるデザインで作成した。また、長期保存が可能な材質を選んで作成した。

教育機関の教職員に向けて研修会では、現場の養護教諭 11 名の参加により、問題意識の高い中での研修会開催となった。なごみでの実情を共有することで、「そこまで現実がたいへんな状況とは思っていなかった。」という驚きの声が聞かれた。

性暴力救援センター日赤なごやなごみの役割は、多職種の方と連携協働して、人を支えるという目

的を遂行していくことである。ワンストップセンターの中で、各機関の支援者が連携協力できるように、力を集約して被害者支援に繋がるような活動を目指す。今後も、健康・医療・福祉に関する活動を展開することを、組織、地域社会の人々の理解が得るように、ホームページ、ポスター、カードの配布、研修会開催等を活用して情報発信していく。

５．実施後の課題（現状）

・ホームページは、若年層が興味を持つ内容であるかの評価が必要。定期的な改修・更新作業は継続していく必要がある。
・学校関係者からのなごみの紹介も増えてきており、今後も、引き続き若い世代が被害に巻き込まれないように、連携して支援活動を行っていく。
・若い世代に、自分の心と身体を守るための性に関する正しい知識教育が行き届くようにする。
・公立学校関係者との連携も進めていく。